ZEN AIR
ー Artist In Residence EIHEIJI
ゼン・エアー アーティスト・イン・レジデンス永平寺

2023年度 活動記録集

ZEN AIR
Artist In Residence EIHEIJI

主　　催　ふくいArts Center and Residenceプロジェクト実行委員会
構成団体　福井商工会議所、永平寺町商工会、(一社)永平寺町観光物産協会、(公社)福井県観光連盟、(株)ミツヤ、(株)クラフトパートナーズ、永平寺町、福井県

ZEN AIR
Artist In Residence EIHEIJI

はじめに

福井県永平寺町は、曹洞宗大本山永平寺を有する「禅の里」として全国に知られている町です。本プログラム「ZEN AIR -Artist In Residence EIHEIJI」では、美術作家（以下、アーティスト）が、永平寺町において禅文化に触れ、禅や地域についてリサーチし、地元住民と交流しながら制作・研究をする機会を提供しています。
「成果発表展2023」では、本年度公募で選ばれたアーティスト２名が、９月〜12月に永平寺町に滞在し、活動を通じて制作した作品を展示いたしました。
大槻 唯我は、大本山永平寺、永平寺町内および周辺で写真を撮影。そこで得たインスピレーションをもとに、刺繍による作品も制作しました。
中村 厚子は、坐禅から得たインスピレーションを立体、インスタレーション、ドローイング、映像で表現しました。
町に息づく禅の精神や文化を、アーティストがどう表現したのか、地域の人たちがどのようにアーティストと関わったのか。公募開始からアフタートークに至るまで１年の活動の記録をこの報告書にまとめました。そして来年度の活動に活かせるよう次への飛躍に向けて取り組んでいます。ご高覧頂ければ幸いです。

ふくいArts Center and Residenceプロジェクト実行委員会
会長　西山 和夫

「ZEN AIR -Artist In Residence EIHEIJI」が「ふくいArts Center and Residenceプロジェクト実行委員会」様のご尽力により、永平寺町内において９月から12月にかけて行われました。まずは、この事業に当たりご協力いただいた多くの方に感謝申し上げます。
さて、今回の事業では、国内外の芸術家67組の応募者の中から大槻唯我さんと中村厚子さんの２名が選ばれました。永平寺町での開催は初めてにもかかわらず、このように多くの芸術家の応募があったことに、私たちが誇る永平寺の禅文化が多くの芸術家にとっても魅力的なものであるということに大変嬉しく思いました。
大槻さんと中村さんのお二人は、９月から本町に滞在され、大本山永平寺をはじめ町内の様々な場所を訪れ、中学校や多くの町民の方と交流するなかで得たインスピレーションをもとに、写真や流木アートなどの作品を制作されました。12月に開催された成果発表展では、町内外の多くの方が観覧され、永平寺町に住んでいる私たちが気付かない町の魅力が詰まった展示内容で、多くの町民の方にも一流の芸術に触れる貴重な機会となりました。
また、この事業では多くの町民の方が制作のお手伝いや会場準備などに参加され、展示会場となった松岡湯谷地区の方やボランティアとして参加された方からも「楽しかった」「また来てほしい」との感想をいただきました。芸術が、地域を巻き込み多くの方々が関わることで、地域の活性化にもつながるということを強く感じました。お二人は滞在の中で多くの町民の方と交流し、永平寺町ライフを満喫されていたようです。是非、お二人には永平寺町を第二のふるさととして、気軽に訪れていただきたいと思いますし、芸術家の仲間たちにも永平寺町の良さや魅力をPRしていただけたらと思います。
３月には、北陸新幹線が敦賀まで開業し、永平寺町にも多くの方が訪れることが期待されております。来年度以降も行われる「ZEN AIR -Artist In Residence EIHEIJI」が多くの観光客にとって永平寺町に来たいと思ってもらえる目玉のひとつになることを期待しております。
結びになりますが、この事業を行うにあたりご尽力いただきました関係者の皆さまに改めて感謝申し上げますとともに、来年度以降の「ZEN AIR -Artist In Residence EIHEIJI」の益々のご発展をご祈念申し上げまして、あいさつとさせていただきます。

永平寺町長　河合 永充

目　次

はじめに
ふくいArts Center and Residenceプロジェクト実行委員会　実行委員長　西山 和夫
永平寺町長　河合 永充

ZEN AIR EIHEIJI について ―― 2
事業目的／永平寺町について／プログラムの特徴

2023年度 ZEN AIR EIHEIJI 活動の流れ ―― 3

公募および結果 ―― 4
公募結果／選考と結果／審査会総評

2023年度募集要項 ―― 5

アーティスト1　大槻 唯我 ―― 6

アーティスト2　中村 厚子 ―― 10

ZEN AIRが目指す地域とアートの新たな関係 ―― 14
ZEN AIR ディレクター（プログラム監修）　窪田 研二

滞在アーティスト×中学生 ワークショップ交流 ―― 16

成果発表展2023 ―― 18
2023年12月7日（木）〜 12月17日（日）
旧永平寺保健センター／土肥家の蔵／永平寺傘松閣

ディレクター＆アーティストトーク ―― 20

関連イベント ―― 21

ZEN AIR PERSON 運営に協力いただいた方々 ―― 22

資料 ―― 24
成果発表展開催概要／クラウドファンディング活動結果報告／
メディア掲載／来場者アンケート結果

Reflections on "ZEN AIR -Artist In Residence EIHEIJI" in 2023 ―― 26

2023年度ZEN AIRを終えて ―― 28

ロゴマークについて

ZEN AIR
Artist In Residence EIHEIJI

コンセプト
Point.1　禅の思想を想起させるミニマルなデザイン
Point.2　「ZEN AIR」の文字をグリッドに、作為性を極力排したジェネレーティブな構成
Point.3　「交差する道」を図案化したラインパターンにより、
　　地域のリサーチや地元住民との交流など、本プログラムの特徴を想起

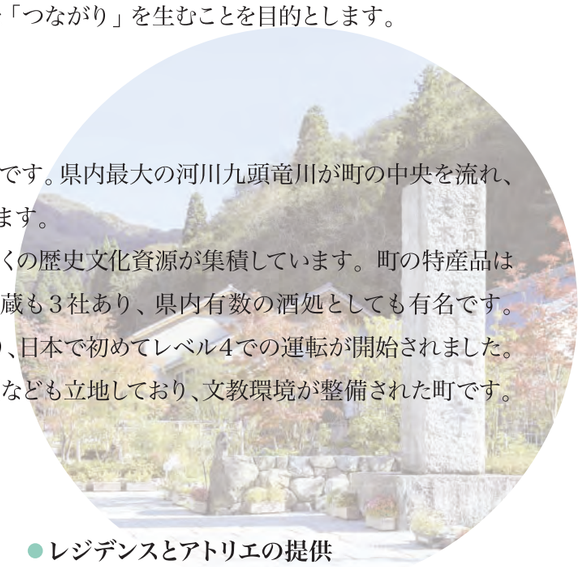
制 作 者
ZEN AIRウェブサイト・ロゴ / アートディレクション　尾崎拓磨（デザイナー、アーティスト）神奈川県在住

ZEN AIR
Artist In Residence EIHEIJI

1．事業目的

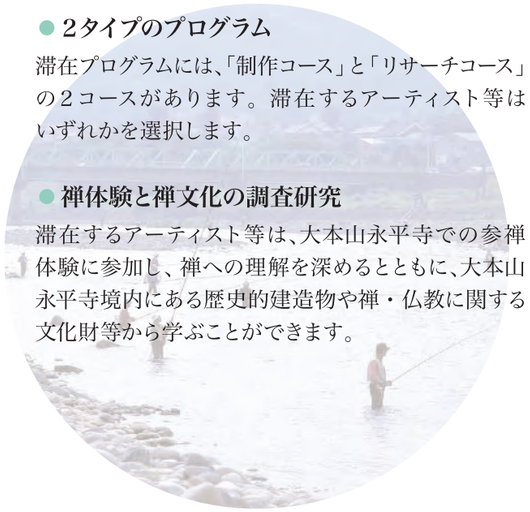
福井県永平寺町は、曹洞宗大本山永平寺を有する「禅の里」として知られています。本プログラムでは、アーティスト等に、禅文化に触れながら、禅や地域についてリサーチをし、地元住民と交流しながら制作・研究をする機会を提供します。アーティスト等には、それらの活動を通じて制作した作品や研究成果を発信してもらいます。本事業はアーティスト等のサポートをおこなうと同時に、町に息づく禅の精神・文化がアーティスト等の目線で引き出されることにより、地域への愛着、芸術文化への関心を高めるとともに、人と人、人と文化など様々な「つながり」を生むことを目的とします。

2．永平寺町について



永平寺町は、人口18,000人の福井市に隣接した町です。県内最大の河川九頭竜川が町の中央を流れ、夏には県内外から多くの鮎釣りが永平寺町を訪れます。
町には大本山永平寺や吉峰寺、松岡古墳群など多くの歴史文化資源が集積しています。町の特産品はたまねぎ、スイートコーン、にんにくなどの他、酒蔵も３社あり、県内有数の酒処としても有名です。
近年は、自動走行の実証実験が町内で行われており、日本で初めてレベル４での運転が開始されました。
福井大学医学部、福井県立大学など学術研究機関なども立地しており、文教環境が整備された町です。

3．プログラムの特徴



● 2タイプのプログラム

滞在プログラムには、「制作コース」と「リサーチコース」の２コースがあります。滞在するアーティスト等はいずれかを選択します。

● 禅体験と禅文化の調査研究

滞在するアーティスト等は、大本山永平寺での参禅体験に参加し、禅への理解を深めるとともに、大本山永平寺境内にある歴史的建造物や禅・仏教に関する文化財等から学ぶことができます。

● レジデンスとアトリエの提供

滞在拠点および制作拠点として、永平寺町内の民泊施設、一軒家等を提供します。

● 滞在中のサポート

主催者はアーティスト等の滞在期間中、禅文化や地域のリサーチ、地元住民との交流、制作活動、発表の機会などをサポートします。

● 活動成果の発表

アーティスト等は滞在期間中に、活動の成果をプレゼンテーションや展示などの形で発表することを必須とします。

2023年度 ZEN AIR EIHEIJI 活動の流れ

2023年

6月　公募開始（締切８/15）

7月　一次選考会
レジデンス２（山口邸）の掃除（７/29）

8月　二次選考会・決定
レジデンス１（駅前宿舎禪（ぜん））の蔵掃除（８/５）

9月　作家来県（大槻氏９/11、中村氏９/22）
大本山永平寺へご挨拶
レジデンス町内会へご挨拶
土肥家訪問
永平寺町内見学（ボランティアによる説明）
「禅の里」まちづくり協議会へご挨拶（９/25大槻氏・中村氏）
永平寺町へご挨拶（９/29大槻氏・中村氏、町長、副町長、教育長と懇談）

10月　中村氏、天龍寺にて摂心（せっしん）（10/１～10/５）
永平寺中学校にゲストティーチャーとして参加（10/11大槻氏・中村氏、10/18大槻氏）
大佛寺山登山（10/13大槻氏・中村氏、ボランティアガイド山川氏と）
吉峰寺（きっぽうじ）精進料理教室へ参加（10/22大槻氏）
松岡中学校ワークショップ（10/26、27、30中村氏）

11月　土肥家の蔵掃除（11/12中村氏、アートサポーターと）
旧永平寺保健センターの掃除＆ペンキ塗り（11/19地元塗装店、アートサポーターと）
中村氏、土肥家の蔵で制作開始（11/21アートサポーターと）
大槻氏、福島県葛尾のアーティスト・イン・レジデンスに参加

12月　成果発表展 開幕（12/７～12/17）※永平寺傘松閣は12/11～12/17
オープニング内覧会（12/６）
中村氏、天龍寺にて公開制作（期間中の土日・午前中）
サコッシュ作りワークショップ（12/９）
ディレクター＆アーティストトーク（12/10窪田氏、大槻氏、中村氏）
アートサポーター有志による土肥家特別公開（12/14土肥家にて）
中村さんと坐禅を組む＆茶話会（12/15）
アーティストと巡る無料バスツアー（12/16）

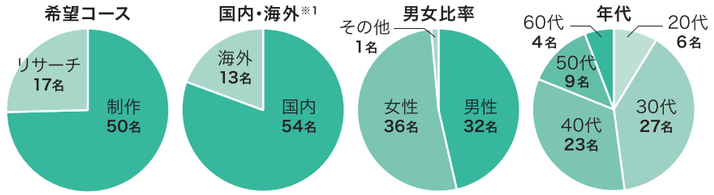
2024年

2月　ZEN AIRアフタートーク―このまえのこと＆これからのこと―（大槻氏、中村氏来県）
リアル会場＆オンライン配信

公募および結果

2023年6月30日からアーティスト募集を開始しました。
１カ月半という短い告知期間にも関わらず海外を含め多くのエントリーをいただきました。

公募結果 総エントリー数 67組



活動分野

写真、インスタレーション、ドローイング、版画、油彩画、水彩画、水墨画、彫刻、立体、平面アート、映像、パフォーマンス、パフォーマンスアート、身体表現、舞台芸術、現代音楽作曲、伝統工芸、染織、建築、自然素材、環境保護

※1 海外：中国・韓国・フィンランド・アメリカ合衆国・イタリア・フランス・ベトナム・ハンガリー・インドネシア・スペイン・ブラジル・ドイツ

選考と結果

1次選考では提出された資料をもとに選考し、選考委員３名により67組から６組まで選出いたしました。主な選考基準として、禅・永平寺との関連、地域への波及力、地域資源の活用といった観点で今回のAIRにふさわしいかどうか応募資料をもとに議論しました。
８月24日に２次選考としてオンライン面接（国内４名、海外２名）を行いました。冒頭に応募者から５分間、採択された際の活動について説明をしてもらった後、各審査員から質問を投げかけました。結果２名のアーティストを決定しました。なお選考結果は2023年８月下旬までにすべての応募者に対してE-mailにて通知しました。

ZEN AIR 2023　審査会　総評

窪田　研二

インディペンデントキュレーター／ZEN AIR ディレクター

第1回目の公募となる本年度には、予想を超える多くの応募が国内外からありました。これは人の生き方や世界の根源的なあり方を探求することを職業としている多くのアーティストや研究者たちが、いかに禅の精神や思想に強い関心を持っていることの証しだと言えるでしょう。
そうした中で、今回は2回の審査会を通じ、永平寺や町内の人々の営みをリサーチし、写真や刺繍などで表現することを計画している大槻唯我と、現地の流木などを使い、人と自然、宇宙との関係性をスケールの大きい彫刻作品で表現している中村厚子が選出されました。今回のレジデンス期間におけるリサーチや制作を通じて、この2人が今後さらにアーティストとして飛躍すること、そして地域の人たちとの新たな出会いにより、地域住民にとっても新しい角度から故郷を見つめるきっかけになることを望んでやみません。

橋本　梓

国立国際美術館学芸課主任研究員

短い応募期間であったにもかかわらず、67組もの応募書類が国内外から届いたことは、審査員である私にとって大変嬉しい悲鳴でした。熱のこもった多数のプロポーザルの中からわずか２組を選出するのはとても厳しい作業でしたが、制作のビジョンを鮮やかに描き、また永平寺町と禅の文化により深くコミットする意志を具体的に示してくださった、大槻唯我さんと中村厚子さんというお二人のアーティストに、ZEN AIR第1回目の滞在という、重要な機会をお渡しすることに致しました。大槻さんは綿密なリサーチに基づいた写真制作、中村さんは自然の素材をふんだんに取り入れたダイナミックな彫刻というそれぞれのアプローチを通じて、新しい現代美術の種が永平寺の地に撒かれ、地元の皆さんが永平寺町を再発見して下さることを強く期待しています。

湊　七雄

美術作家 ／ 福井大学教育学部教授

今回の新たな試みに67組もの応募がありました。世界各地のアーティストや研究者が禅の精神性に共鳴し、自身の表現・研究に結びつける方法を提案していただき深い感銘を受けました。それぞれの提案がとても魅力的であり、選考プロセスには相応の困難が伴いましたが、以下の観点をもとに総合的に審査しました。まず、禅との調和について、アーティスト・研究者がどのように禅の精神性や「永平寺」という場所との関連性をプロジェクトに取り入れ表現しているのか。つぎに、地域住民・地域コミュニティーとの関わりについて、地域のリソースをどの程度活用しているか。最後に発展性について、作品やプロジェクトが永続的な価値や意義を地域にもたらす可能性があるか。今回、残念ながら選外となったプロジェクトにも多くの可能性が含まれていることを審査員一同認識しました。中長期的な視点で、「ZEN AIR」を育てていくために、どうぞ温かい目で関わりを持っていただき、今後の発展にご協力いただけると幸いです。

募集要項

プログラムの概要および応募条件

公募数	２つのコースあわせて2組	
対　象	**制作コース** 現在活動しているアーティスト（ジャンル不問）	**リサーチコース** 現在活動しているアーティスト、キュレーター、芸術系研究者等（ジャンル不問）
滞在期間	2023年 ９月1日（金）から12月20日（水）までの間の最短60日間～最長90日間	2023年 ９月1日（金）から12月20日（水）までの間の最短20日間～最長90日間
活動内容	・永平寺町内における滞在制作。 ・一定期間の公開制作。 ・作品展示、パフォーマンス、トーク等、活動の成果発表。	・禅文化や永平寺町内の調査研究。 ・プレゼンテーション、トーク等、活動の成果発表。
滞在拠点および活動拠点	永平寺町内の民泊施設、一軒家等	
交流プログラム	ワークショップまたは学校訪問のいずれかを1回以上実施	
応募資格	・20才以上のアーティスト、研究者、キュレーター ・国籍不問 ・日本語または英語での意思疎通ができること ・地元住民と良好なコミュニケーションをとれること ・健康状態が良好であること ・活動の成果発表を行うこと ・交流プログラムに参加すること	

展示を行う場合

会場：永平寺町内の施設等（野外展示を含む）
＊展示場所はアーティストと主催者および町役場担当者との協議の上、決定します。
＊作品展示、展覧会構成に関しては、主催者との協議の上、決定します。

応募方法

所定の応募用紙をZEN AIR ウェブサイト【https://zen-air.org】よりダウンロードし、必要事項を記入の上、指定のE-mailにてご応募ください。件名は必ず「ZEN AIR2023 応募」としてください。

提出書類

(a) 応募用紙
(b) 活動資料（応募用紙内の「活動資料について」欄に添付・記載のこと）
①作品画像・活動記録写真５点以内
少なくとも３点は必ず提出することとし、各作品画像のデータ容量は2MB以内とすること。
②映像作品３点以内（任意）
映像ファイルをファイル転送サービスまたはオンラインストレージ等にまとめてアップロードし、URLを添付してください。
映像の長さはすべてを合計して10分以内とすること。
※指定したサイズやフォーマット、方法以外で応募された場合、選考対象外となる場合があります。
※提出書類は、原則として返却いたしませんのであらかじめご了承ください。
※個人情報の取扱い：応募書類については、当実行委員会の事業以外の目的には決して使用いたしません。

応募受付期間

2023年６月30日（金）～2023年８月15日（火）　日本時間23時59分【必着】　※期間外のご応募は受け付けません。

※滞在費、制作費など詳細についての記載はここでは割愛いたします。

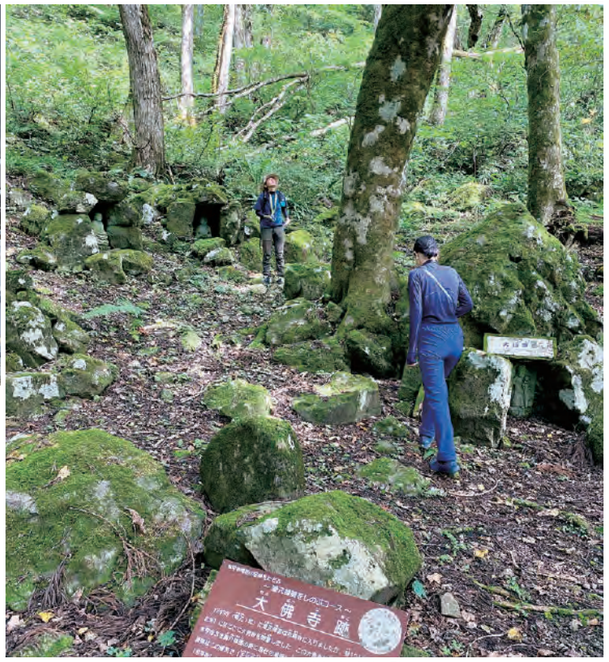
アーティスト1

大槻唯我

OHTSUKI　YUIGA

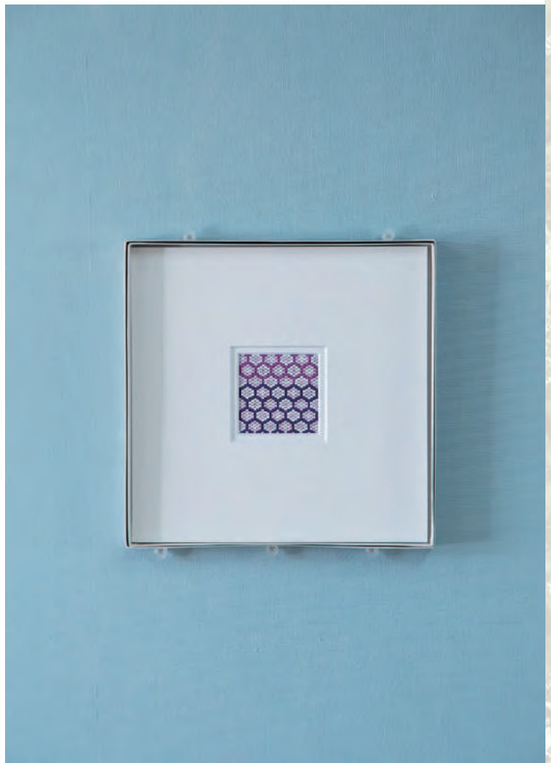
永平寺町観光ボランティアガイドよる町内巡り

吉峰寺精進料理教室に参加



大佛寺山へ中村氏とボランティアガイドとともに登山

伝統工芸工房イベント「RENEW」を見学



去 来

永平寺町を離れてからひと月半が経とうとしている。経験したことについての判定を下すのにはまだ早すぎるが、永平寺町で過ごした71日は本当に贅沢な時間であったと今も思う。2023年10月29日に、私は一度永平寺町を離れたのだが、その日は秋晴れの気持ちの良い日で、午前中九頭竜川の河畔を歩きながら同じことを考えていた。今回の滞在以前、永平寺町と聞いて思い浮かぶものは大本山永平寺の伽藍であり、町のことはあまり知らなった。今、永平寺町を思い返すと、九頭竜川沿いの河岸段丘と山々、上流に青く霞む加越山地、本山に向かう永平寺川沿いの狭い谷間の集落、寺院が点在する松岡の街並、福井平野を望みながらも異なる時間が流れているような荒川沿いの吉野地区、鐵通坂（てつつうざか）の奥にじっと佇む吉峰寺（きっぽうじ）、そして永平寺町の人々が浮かぶ。

今回の滞在以前より、死から生を捉えなおすということを制作テーマの一つとしていた私は、禅宗をはじめとした仏教における死生観や思想に関心があった。実践としての修行の在り方、それを体現していく人の営みにも興味を持っていた。浄土真宗が深く根付くこの土地では、信仰と生活の親密さを感じる。町内を歩いていると、よく手入れされた墓や、道端の地蔵菩薩や道祖神に綺麗な花などの供物があり、定期的に地域の人々が気を配っている様子が見受けられる。

９月末から10月はじめにかけて、秋祭りが町内の多くの神社で催されていた。柴神社の御鳳輦（ごほうれん）巡行（じゅんぎょう）の夜、かつてとは生活様式が様変わりした時代に、着慣れない装束を纏った人々は少し滑稽でもあり、つくりものめいてもみえた。しかし、境内から暗い町内に向かってぼんやりとした提灯の灯りを頼りに進む一行は、遠い過去から連なる土地に結びついたアイデンティティと現在をかろうじて繋いでいるようでもあり、日常の光景の中にある聖と俗の混淆が垣間見えた時間でもあった。翌日は町の一角に屋台が並び、子供たちが賑やかに集まってきていたが、木立を挟んだところにある天龍寺では月初の摂心の最中で、只管（ひたすら）に坐り続けるという、純粋な曹洞禅を実践している空間がほんの数十メートル先に共存しているということに、この土地の風土と、人の暮らしが脈々と続き、多様な形で関係し合いながら保たれているものがあると思うと堪（たま）らない気持ちになった。

最近、個人的な制作について考える時に、それらの多くが道元禅師の思想、宗教としての禅の一端に向かうことに改めて気づかされている。私の関心が向かうところが日本の自然や地形、風土と結びついた人の営みであるからこそともいえるが、宗教や宗派以前に、山と川に囲まれた土地において、何か分かち難いものが、私たちの文化や生活の深いところで結びついているのだろう。また、アーティストが作品制作を通して自己と向き合い、深淵を覗き込むという作業は、どこか修行に似ているようだと今も改めて思う。

大槻 唯我　おおつき ゆいが
1990年兵庫県生まれ、2014年武蔵野美術大学造形学部映像学科卒、2023年東京藝術大学大学院美術研究科先端芸術表現専攻博士後期課程修了。現在は、東京を拠点に制作活動を行う。被写体となる土地の詳細なリサーチに基づき、死と生をめぐる人の営みや、風景の背後にある風土や場所に焦点を当てた作品の制作を行っている。
https://www.yuigaohtsuki.com/　　Instagram @_yuiga

アーティスト2

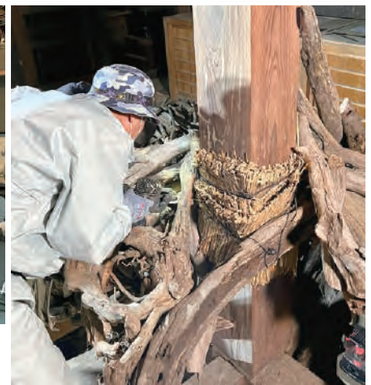
中村厚子

NAKAMURA　ATSUKO

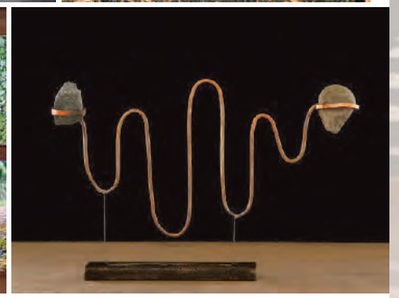
天龍寺で鑑賞者と坐禅会を開催

発表展開催期間中はドローイングの
公開制作を天龍寺で行った

アートサポーター有志とともに土肥家の
母屋で開催したトークイベント



土肥家の蔵の作品は延べ15日間、延べ58名のアートサポーターと完成させた



「今」と「直感」に向き合う

10代の終わり、永平寺にドライブに来たことはあったが、壮厳で固苦しい寺の中に入ろうと思ったことは無く、ましてや禅と関係していたなんて知る由もなかった。それから13年、海外から日本へと作家活動の環境が変化したことから自分の作風に悩み、近年は瞑想を日課にしながら活動してきた。瞑想の起源が坐禅であるらしい、禅の教えは自然とのつながりを解くものであるらしいと知り、坐禅を組み禅を学びながら制作できる絶好の機会だと思い、応募させて頂いた。

禅とは何か。かつて鈴木大拙の著書を読んだが難解だったので、とにかく実践して自分なりに掴み取ろうと決めた。約2ヶ月間、天龍寺にて坐禅、朝課（ちょうか）、赴粥飯法（ふしゅくはんぽう）、作務（さむ）、摂心（せっしん）という禅の修行に参加させて頂いた。摂心では4時20分から21時まで、食事を挟みながら1日10時間ほどの坐禅を5日間行う。薄暗く静かな僧堂で姿勢を正し、呼吸に集中し半眼で坐る。どんなことが脳裏に浮かんでもそっと流していく。しかし視界に入ってくる棚の桟（さん）や木目がアニメーションのように動きだし、不思議なオブジェや侍の顔、風景画などに見えてきて、現れては消えていく。

障子越しに外の気配がする。月が雲間から顔を出す闇夜の空が少しづつ白々しくなるにつれ、虫の音も段々と大きくなっていく。鳶（とんび）や雀が鳴いて、朝日が昇り、カラスが鳴く。日の光が降り注ぐ日中は案外静かで、夕方になるにつれ再び様々な虫の音の大合唱。夜は月明かりに照らされた紅葉の影が戸の障子に映る。自分の五感がどんどん研ぎ澄まされていく。日本で最初のインスタレーションを作ったのではないかと個人的に勝手に崇拝している千利休がなぜ茶道や待庵を思いついたのか、その源流を垣間見てニヤニヤしてしまう。しかし坐禅とは何か。やればやるほど分からなくなり、正法眼蔵坐禅儀（しょうぼうげんぞうざぜんぎ）を読んでも何だかよく分からないまま摂心が終わった。

翌日、お坊さんたちと温泉に行き、露天風呂に入っていた時のこと。坐禅中に聴こえてきた鳥の鳴き声がしてふと見ると、木に留まっている鳥の姿が。そこに風が吹いて、木が揺れ、葉が地に落ちた。葉はやがて土に還るのね、この風呂の岩は九頭竜川を流れてくる間にこのように削られたのかも…と想像していたら、急にハッとした。鳥は鳥、木は木、風は風、岩は岩の、それぞれがそれぞれの仕事を一生懸命やっている。それらは互いに影響しあっていて、この世界ができている。だから私も私ができることを一生懸命すればいいんだ…と腑に落ちて安心感が込み上げ、涙が溢れた。後に、こうやって世界ができていることを仏教では「縁起」と呼ぶのだと大本山永平寺副監院（ふくかんにん） 西田正法（にしだ しょうぼう） 老師（ろうし）に教えて頂いた。

禅の修行は私にとって刻々と変わりゆく「今」と、自分の「直感」に丁寧に向き合あうことであったように思う。それは私により自由を与えてくれた。私はこの延長線上で、永平寺の風土や空気に溶け込みながら、自然と手が動くままに制作を始めた。「縁起」という気づきを元に『行雲流木水（こううんりゅうぼくすい）』を、場で拾った物を直感的に組み合わせて『即興ワーク無為自然』などを制作した。制作では、自分のできることを通して永平寺を盛り上げていきたいと活動されている地元の多くの方々に見守り、支えて頂いた。ZEN AIRでの体験は「生き方道」と呼ぶべき、自分のこれからの作家人生の指針となる気づきを沢山与えてくださった。この機会を頂戴したことに心から感謝している。誠にありがとうございました。

中村 厚子 なかむら あつこ

1982年石川県生まれ、2005年武蔵野美術大学造形学部建築学科卒業、2011年ロンドン大学スレード美術学校修士彫刻課程修了。現在は、神奈川県を拠点に制作活動を行う。場を訪れ、自然と戯れ、地域の歴史や文化、自然観を学ぶ。そこでの気づきをもとに現地の自然素材や現象を用い〈私が作る部分〉と〈自然が作る部分〉を意識的に組み合わせながら、人と自然の関係について制作を行う。

https://www.atsukonakamura.com/　Instagram @atsukonakamura_studio

ZEN AIRが目指す地域とアートの新たな関係

アーティスト・イン・レジデンス（Artist in Residence、以下、AIR）とは、国内外からアーティストを一定期間招へいし、滞在中の活動を支援する事業をいう。日本では「作家滞在型制作」とも呼ばれるこうした事業の多くは、一般に「美術作家」が現地に「滞在」をして「制作」することが主目的となるが、主催者はアーティストを支援するという目的とともに、滞在期間に制作された作品を発表する展覧会や、滞在アーティストによるワークショップ、講演会などを開催し、地域住民との交流や、地域の活性化を期待する場合が多い。こうしたAIRの歴史は長く、海外では17世紀のフランス王立アカデミーが若いアーティストを欧州各国へ派遣して研修のために滞在させたことに遡ると言われている。一方で日本国内のAIRは、1995年から始まった「アーカスプロジェクト」（茨城県）や、1998年にスタートした「秋吉台国際芸術村」（山口県）などが重要な先行例として挙げられるだろう。
2021年から起きたコロナ禍によって、私たちはあらためて自身の生活を見つめ直し、今後の生き方を考えるきっかけになった。こうした契機から都会を離れ、地方に住み、大量消費社会や競争社会から距離をとって暮らすことにより、新たな生き方を模索する人たちも多く見受けられるようになった。前述したように日本国内でのAIRの歴史はまだ30年ほどであるが、こうした地方への関心の高まりや、過疎化対策としても近年AIRに対する関心は再度高まっており、現在国内では大小100以上のAIRが存在している。

こうした中で今回永平寺町でのAIRが構想されたのだが、その背景にはこの地でAIRを実施することにより、大本山永平寺を擁するこの町のポテンシャルを滞在アーティストが再発見することや、この町の魅力をアートによって広く発信してもらいたいという主催者の願いがあった。だがAIRは地域のコミュニティがアーティストをサポートしなければ成立しない事業であり、地域の方々の理解や参加が不可欠な事業でもある。そこで令和４年度にはアーティストや美術関係者を招いてAIRのさまざまな事例紹介や、永平寺町でAIRを実施することの意義や可能性についての勉強会やワークショップなどを開催し、地域の方々と意見交換を重ね、AIRに対する認識を共有した。
その結果、「禅の里」永平寺町では、禅を体験し、リサーチや地域の方々との交流を通じて滞在アーティストに禅や地域の理解を促すとともに、そのような体験を通じてアーティストに新たな創作のインスピレーションを受けてもらえるようなAIRを実施する方向性が決まった。それが永平寺町ならではの「禅とアート」による世界でも類を見ない「ZEN AIR」である。

その後、具体的な枠組みが話し合われ、アーティストの滞在期間、コース、支援内容、滞在および制作場所などが決まり、一般に公募する運びとなった。その結果、国内外67組と予想を超える多くの応募があり、審査員3名によって書類選考とオンライン面談を通じて最終的に2名のアーティストが決定した。９月に入り、今回選出された大槻唯我と中村厚子が永平寺町に到着し、それぞれのテーマをもとに永平寺町のリサーチや禅の体験などを行なった。今回選考されたアーティストは両者とも国内在住の女性アーティストという共通点はあるものの、彼女らのアプローチや表現方法はある意味で対極にあったと言えるだろう。

中村は連日天龍寺で坐禅の取り組みを行うことで、坐禅を通じて自身に向き合い、新たな境地を見出そうとしていた。一方、大槻は大本山永平寺や永平寺町内を歩きながら多くの時間を過ごし、その時々で撮影するという方法を取った。
言い換えれば、中村は禅を通じて個に向き合うことで、そこから世界のあり様や普遍的な何かを掴もうとした。他方、大槻は大本山永平寺や永平寺町に堆積された膨大な時間を想像し、そこで生き、そして死んでいった人々と、それを見守り続け、今なお存在する土地や建物、あるいは文化や風土などを見つめることにより、人々の死生観を考察するという方向性だと言える。

こうした2人の滞在の結果、中村は地域で集めた流木を使ったダイナミックな彫刻作品に加え、坐禅で浮かんだイメージ（妄想）のドローイング、自身が踊る舞踏の映像、街中で拾ったものを組み合わせて作るオブジェなど、多岐にわたる作品を制作・展示し、鑑賞者にさまざまな角度から今回の滞在の成果を伝えた。
一方で大槻は、大本山永平寺で撮影した写真作品18点を永平寺の傘松閣に展示し、永平寺町内で撮影した写真は大槻のテキストと彼女が歩いた町内の軌跡を記した地図とともに町内の旧保健センターで展示した。それに加えて大槻は、永平寺内で気になった伝統的な紋様を絽刺しによる刺繍作品として展示した。
このように中村のパワフルで雄弁な作品に対し、大槻は静謐で、ミニマルな作品だと言えるだろう。そういう意味でも両者の表現は大きく異なるのではあるが、どちらの作品も、本人たちの滞在中の体験から生まれているものであり、作品の前でアーティストの追体験をすることで、禅をはじめとして永平寺町が培ってきた長い歴史や文化を感じ取ることが出来るのだ。

１年目のZEN AIRは、中学校でのワークショップやボランティアとの共同制作、そして成果発表展やシンポジウムなどを通じて、多くの出会いや気づきがアーティスト、地域住民双方にあり、一定の成果を挙げることが出来たと考えている。そしてこのような取り組みは継続させることによってはじめて、地域の魅力が対外的にも認知され、さまざまな波及効果が生まれるのである。今後も本年度の経験を生かして、ZEN AIRが地域に愛される事業となることを願っている。

プロフィール

窪田 研二 くぼた けんじ
ZEN AIRディレクター（プログラム監修）　/　インディペンデント・キュレーター
上野の森美術館、水戸芸術館現代美術センター学芸員を経て2006年より現職。多様な社会システムにおいてアートが機能しうる可能性をアーティストや大学、企業などと協働し、様々な文化的フォーマットを用いて試みている。
「六本木クロッシング2010」（森美術館、2010）、「Asian Art Biennale」（国立台湾美術館、2017-2018）、「Reborn-Art Festival 2021-22」（宮城県石巻市、2021-2022）他、国内外の展覧会キュレーションを多数手がける。現在、SNOW Contemporaryディレクター、川村文化芸術振興財団理事、福井県芸術文化アドバイザー

WORKSHOP

滞在アーティスト × 中学生 ワークショップ交流

本プロジェクトの柱の一つに、地域交流を掲げています。本年度は滞在アーティスト２名が永平寺町立の中学校へ出向き、中学生と交流しました。

永平寺中学校

2023年10月11日、18日　永平寺中学校２年生36名
総合的な学習の時間にて

永平寺中学校では1年生から３年間かけ、ふるさと学習と題して永平寺町の魅力を探し、町を盛り上げるプロジェクトを企画、発信しています。
10月大槻さんと中村さんは２年生の総合学習の時間、グループごとに立てたアイデアに助言するゲストティーチャーとして参加しました。

大槻さんは「地元でしか食べられないものは何かな」「特産品とは何かな」と問い、生徒たちが答えて対話を重ねました。中村さんは「みんなのお気に入りの場所を教えて！」と切り出すと皆「帰り道、夕焼けの九頭竜川」だと教えてくれました。アーティストと会話をきっかけに自分たちの考えを口にして、形にしていく時間。生徒たちの心の中に眠っていたふるさとへの思いが引き出された授業となりました。（本授業の様子は地元ケーブルテレビで放映されました）

自分の気に入っている場所や、そこに合った季節をモデルコースに入れてみたら良いのではないかというアドバイスをもらったのでそれを生かしてプロジェクトを達成できるようにしていきたいと思います。

僕は中村さんのお話を聞いて、永平寺町は他の地域から見ても自然の綺麗な場所がたくさんあるから、自分の思い入れのある場所など特別な場所を厳選して選ぶと良いと言うことがわかりました。
モデルコースの場所を決めるときには自分のお気に入りの景色を選んだり、この時間帯がいいと言うのを考えて選んだりするのが良いということが分かりました。

大槻さんと話していろいろなアドバイスをもらいました。まずアイスクリームかソフトクリームなのかを決めるのではなく、永平寺町の特産品をどう取り入れるのかを考えた方がいいとアドバイスをもらいました。
例えばコーンをピクニックコーン味にするという意見をもらいその大槻さんがおっしゃっていた意見を参考にグルメを考えたいです。

自分にはなかった、あーってなる考えや自分も大事だなと思っているものもあって、とても勉強になりました。来週もしっかりと話を聞いてプロジェクトに生かしたいです。

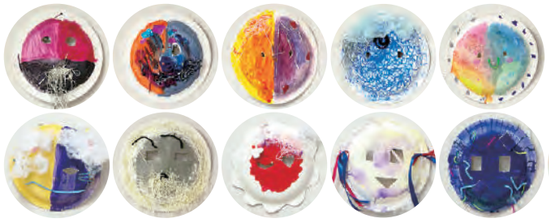
モデルコースのアドバイスで、自分の気に入っている場所をモデルコースに入れていくと良いと聞きました。
また、季節が違う時に見られる景色も違うところがあり、季節限定のコースを作っていくことが良いと聞いたのでこれからのモデルコース作りに活かしていきたいと思いました。

大槻さんと話して分かったことは、観光客の方は、その土地でしか食べられないものを食べたい！と思うということです。このことから、できるだけ永平寺町のものを使いたいなと感じました。永平寺町の特産品などを使うということは、私たちがその物の味や見た目などを知らないといけないと思いました。

大槻さんとお話をして、企画はソフトクリームに限らなくても良いことや、やはり観光客はその土地のものやその土地特有のものを買いたがるから、そういう要素も入れた方がいいことなどが分かりました。大槻さんの活動の話では自分たちの生活は森林などを破壊してできていると分かりました。

中村さんとお話しして、改めて永平寺は自然に恵まれた地域だと感じました。いろんなネタがあるので上手く使っていきたいと思いました。
アーティストならではの発想などをされていて、面白い考えだなと思うことが何回かあったのでぜひ参考にさせてもらいたいと思いました。

大槻さんにお話を聞き、プロジェクトについてもう一度考えました。食べ歩きグルメの見た目だけを気にしていましたが、永平寺町出身でない方に話を聞くと、やっぱり特産品を使った方がいいと意見をいただきました。プロジェクトがまた大幅に変わりそうです。すごく良い機会になったので、とても楽しかったです。



松岡中学校

2023年10月26日、27日、30日　松岡中学校美術部17名
中村厚子ワークショップ　「舞踏（身体表現）」

中村さんは1960年代に舞踏家・土方巽（ひじかた・たつみ）が始めた前衛的ダンス「暗黒舞踏」をベースに、見えるもの、感じたことを身体で即興的に表す「身体ドローイング」という手法を生み出し表現しています。これを中学生とともに行うワークショップを開催しました。

１日目は呼吸、瞑想、基本姿勢を教わり、中村さんからのお題に対し生徒が想像したことを体で表現しました。仮面を作成して３日目に本番を迎え、全員がそれぞれの舞踏を披露しました。「周りの目を気にすることはない。自分のために踊ろう。いい経験もいやな経験も自分だけのもの。感情をさらけ出すことは、自分を大切にするということ。だからやってみよう」という中村さんからの言葉を胸に、生徒たちは「アヴェ・マリア」に乗せて身体表現をしました。（本ワークショップの映像は、成果発表展期間中に上映しました）

この3日間の体験で、じぶんらしいじぶんを表現することができました。周りから「笑わせようとしてる？」と言われましたが、中村さんに「それでいいんだよ」とアドバイスをいただいたので少し自信がつきました。自分を表現すると、ああ、この時こんな気持ちだったんだなと、改めて分かりました。おかげでそのままの自分や、抽象的なイラストも描けそうです。

美術の先生が来るって知った時に美術のことを教えていたただくのかと思っていました。でも違っていて舞踏を教えていたただくと分かり、何のためなんだろうと思っていたけど、表現力を鍛えることだと分かってびっくりしました。けれどやったことないような経験ができて嬉しかったし、楽しかったです！模写するのもいいけど、これからは中性的な表現も生かして絵を描きたいです。

最初は自分の気持ちを表現したり想像したりするのは難しくて慣れませんでした。だけれど少しずつ自分の気持ちを表現したり想像したりすることが楽しくなりました。でもやっぱり自分の気持ちを表現するのは恥ずかしくてあまり好きではなかったけど、あまりしたことが無い事を経験出来て良かったと思いました。この時間で良いことが学べたのでそれを今後部活や美術に生かしたいです。

抽象的な表現をする機会があまり無かったので、貴重な体験でした。

3日間とても楽しかったです。このような部活を受けて私は美術を本格的にとか抽象的に考えたことはそんなになかったんですがやっぱり3日間自分について考えられたのでありがたかったです。これを通して自分をあるがままに他人に出していこうと思いました。ダンスはそんなに好きでは無く、むしろ苦手だったんですが自分を出している舞踏会（ダンス）では自分を曝け出した舞踏会を意識できたと思います。
このような体験は美術部に必須とは限らないですがもう一回ぐらいあってもいいかなと思いました。仮面もそうだけど自分を見つける・探すことは自分にとって新たな個性を持つ可能性があるんだな。と思いました。

舞踏という芸術のダンスを初めて知ったけれど、想像力を働かせて踊ることができ、自分の心を表現することの面白さが分かりました。今までは、抽象的な絵を描いたことはなかったので、今回学んだ、自分の心を表現するということをこれからの活動に活かしていきたいです。

部活の時は、このような瞑想をしたりお面を被って感情を表現したりする事をあまりしなかったので少し難しく感じました。でもあまり経験しないことなのでいい機会だなと思いました。
楽しい３日間になりました。

成果発表展 2023

2023年12月7日（木）～12月17日（日）
来場者数　4,418名

第一会場
旧永平寺保健センター〈総合受付〉
福井県吉田郡永平寺町東古市8-16-2

１大槻唯我　白い壁の部屋
永平寺町内を徒歩でまわり撮影した風景写真を展示

２大槻唯我　笏谷石の部屋
大本山永平寺で目にした模様や形を図案におこし、絽刺しの技法で刺繍した作品を展示

３中村厚子　和室
映像、即興オブジェ、ドローイングを展示

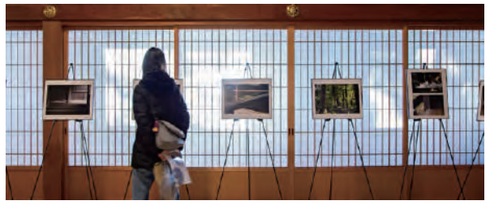
４ワークショップ成果展示
松岡中学校の生徒によるお面と創作ダンス動画・写真、アーティストがゲストティーチャーを行った際の永平寺中学校での動画・写真を展示

３会場や関連イベントのハブとなるインフォメーションセンターの機能を持たせ、来場者の対応をいたしました。ほぼ全部屋に作品を展示。来福して出会った人たちがアーティストのもとを訪れ、作品を見て語るなど交流が生まれていました。また、地域おこし協力隊の方には永平寺町産の特産物を使ったドリンク類を提供していただきました。

第二会場
土肥家の蔵
福井県吉田郡永平寺町松岡湯谷8-29

中村厚子さんのインスタレーション作品を展示。11月21日から15日間、この蔵でアートサポーターと共に制作を行いました。

第三会場
大本山永平寺 傘松閣〈さんしょうかく〉
福井県吉田郡永平寺町志比5-15



12月11日（月）～ 12月17日（日）8:30 ～ 16:00
※12月7日～ 10日までは旧永平寺保健センターで展示

大槻唯我さんが滞在期間中に撮影した写真作品18点を展示。

ディレクター＆アーティストトーク

2023年12月10日　旧永平寺保健センターにて

K … 窪田研二（ZEN AIRプログラムディレクター）　O … 大槻唯我　N … 中村厚子

K　それぞれどのような動機でZEN AIRに応募されたのかお聞かせください。

O　「死から生を捉え直す」が私の制作のテーマの一つで、その過程でさまざまなリサーチを行っています。主に西洋哲学における死の捉え方を知識として得ていたものの、一方で仏教思想や漢文などから東洋の死生観に関心を持ち、きちんと学びたいという思いに至ったんです。修行僧が観光客と同じ空間で修行をするという永平寺は、日本国内でも例を見ないと感じました。ZEN AIRの募集を目にして、「これは応募するしかない！」と。

N　私は「坐禅がしたかった」という一言に尽きます。「禅の里」で制作ができる機会があるなら坐禅体験を通して「禅とは何か」をつかみ取れればと考えました。

K　２人が現地入りしたのは９月の後半でした。生活を送る中で、どのように制作の足がかりを得たのか、アーティストのアンテナに引っかかる永平寺町の風土も含め聞かせてください。

O　応募段階から本山に通いたいという思いを持ち、制作過程でも週に1、2回は通っていました。滞在して戸惑ったのは、曹洞宗を信仰する一般の方がほとんどいないということでした。福井の土地柄、浄土真宗のかたが多くて。そういう環境における禅の文化とは何だろうと、心に引っかかってはいましたね。曹洞宗をあくまで仏教の宗派として優先するか、観光として捉えるかで文化としての前提が変わってきます。両者の関係性について今でも私の答えは出ていません。ただ永平寺町という町については分からないままだったので、どんな人たちがどのように営みをしているのかを自分の目で見ないことには始まらないなと思って。とにかく歩いて写真を撮りました。

N　永平寺町役場の方に「天龍寺なら朝の坐禅ができるよ」と教えていただき、福井に到着した2日後の朝に伺いました。何も知らずにいきなり坐禅をして天龍寺のご住職に「ZEN AIRというプロジェクトで永平寺町に来ている。食事のことも学びたい。ぜひやらせていただけませんか」とお願いしたところ、「明日から来なさい」とすぐに言っていただけました。そこから1カ月以上ほぼ毎日通っています。10月頭には1日10時間の坐禅を5日間行う摂心(せっしん)という修行にも参加しました。発表展で披露した『坐禅妄想記(ざぜんもうぞうき)』がその成果の一つです。坐禅を始めた頃、目の前にある板の木目やカーテンが動いてるように見えたんです。イメージの妄想が湧いてきて楽しかったのに３日目あたりから見えなくなってきました。そこで初めて「坐禅とはなんだ？」と意識して住職に話すと「目的を持って坐禅してはいけない」と教わったのです。それを聞いたとき今まで見た妄想が走馬灯のようにぶわーって出てきて、「あ、これは絵を描けということなんだろうな」と感じて制作にかかりました。

K　大槻さん、町内を歩き回ってみて「他の地域とはここが違う」気づきはありましたか？

O　私の祖父母が住んでいた場所と似てる雰囲気があります。川が流れ谷があり、一種の懐かしさを感じながら町内を歩いていました。私はいわゆるニュータウン育ちなので、ふるさとの感覚が薄いんです。一方でご本山永平寺には別の魅力があります。長期間いる方はいない。雲水さんも毎年入れ替わる。800年近くの歴史の中で入れ替わり誰かが来て、場所が形成されていく過程が面白いです。本山は火災に遭って再建されていますし、町内にはさらに古い建造物もあり、時間の蓄積というものを感じます。

K　大槻さんは多くの文献を読んで歩いて写真を撮る。中村さんはひたすら坐禅をする。中村さんは舞踏という身体表現を含め、そのアプローチもよく理解できます。それぞれが別の切り口から攻めているところが面白いと感じました。

このトークの続きと全文は、
ZEN AIRの特設サイトで閲覧できます。

関連イベント

アーティストと巡る無料バスツアー

2023年12月16日(土) 9:00〜11:00
参加者13名

クラウドファンディングのリターンのひとつにアーティストとの交流会を設け、マイクロバスで会場を巡りました。大槻さん、中村さんが各会場でそれぞれ作品解説をし、参加者のみなさんは表現者の想いや創作過程の話に耳を傾けていました。

ツアー内容

旧永平寺保健センター出発 → 天龍寺で中村さんによる公開制作と僧堂の説明 →土肥家の蔵 → 旧永平寺保健センター鑑賞 → 大本山永平寺で大槻さんによる説明

サコッシュ作りワークショップ

2023年12月9日(土) 13:00〜16:00
参加者4名

クラウドファンディングのリターンにZEN AIR特製地域住民による手作りななめがけポーチ（サコッシュ）を提供しました。そのサコッシュをみんなで作ろうというイベントを開催しました。

実施期間中に行ったイベント

アートサポーター、ボランティアスタッフを募り、アーティストの方に気持ちよく使っていただけるよう主に清掃を皆さんで行いました。

レジデンス2（山口邸）の掃除

2023年7月29日(土)　参加者7名
9月３日(日)　参加者5名

山口邸の周辺の草刈りや側溝の掃除をしました。

土肥家の蔵の掃除

2023年11月12日(日)　参加者11名

会場となる土肥家の蔵の片付けと清掃、展示用箪笥を運び出しました。

レジデンス1（駅前宿舎禅(ぜん)）の蔵の掃除

2023年8月5日(土)　参加者9名

駅前宿舎禅の蔵の荷物だしや照明設置、掃除をしました。

旧永平寺保健センターの掃除＆ペンキ塗り

2023年11月19日(日)　参加者13名

メイン会場となる施設内を地元塗装店の方の協力を得てギャラリー風にペンキ塗りをしました。
外観も窓ふきや洗浄をしました。

ZEN AIR PERSON! 運営に協力いただいた方の感想

写生と創造、対照的だったお二人

大本山永平寺副監院　西田 正法 さま

「ZEN AIR-Artist In Residence EIHEIJI 2023」で来町された新進気鋭のアーティスト、写真家・刺繍作家の大槻唯我氏、造形作家の中村厚子氏、永平寺町に３カ月滞在されての成果発表展にお邪魔しました。
おふたりとも永平寺町の風土や文化に触れ、感じ、学び、消化し、新たな作品を生み出そうと来町された方です。当初のおふたりと面談しておりましたので、期待を胸に会場へと足を運びました。
永平寺町で、禅とその文化に触れられたおふたりが、おふたり共にご本人の本来性をグレードアップされた、と直感しました。
大槻さんとその作品を拝見し「観音様の眼差しだ」と感じました。時間と空間の中で〝斯く在るもの〟を〝如何にして斯く在るか〟を我見の無い優しい眼差しで見つめている、そんなご様子が目に浮かぶようでした。その優しさは刺繍作品にも漂っていて、同色の糸の陰と陽が互いを生かし合い融合している様子は、仏教が説く縁起の世界そのものだったのです。坐禅による縁起の体感がそこにあり、静逸さを身に纏った大槻さんもまた観音様のよう見えたものです。
中村さんです。善くぞこの様に対照的な方を選考されたなと驚くほどおふたりは違うのです。大槻さんが静ならば中村さんは動です。大槻さんが陰ならば中村さんは陽です。永平寺町滞在の様子も対照的だったようです。静かに観察して歩かれる大槻さんに対して、中村さんは与えられた３カ月間で、何をどう吸収し、如何に消化し、中村厚子というフィルターを通して何を生み出すかをテーマに、坐禅をし、歩き回り、人や自然と語り合い、好奇心に満ちた丸く大きな目を輝かせて動き回る様子が伝わって来る人柄。周囲に元気を与える存在で、武道家やスポーツ選手が求める坐禅の丹田力を感じさせて下さいました。
松岡湯谷の旧家土肥家土蔵の中央、天井兼床を抜いて吹き抜けとし、幅一尺は有ろうかという通し柱に巻き付きせり上がった流木群は、さながら天空に飛翔する龍を思わせる圧巻な作品でした。滞在中、松岡の天龍寺さんに通い詰め坐禅をし抜き、蓄積させた丹田力が吹き出しているようでした。中村さんへの驚きはまだあります。流木による巨大でエネルギッシュな作品と対照的に、路傍や山中に転がっている何の変哲も無い〝物〟に、愛情を注ぎ込み命ある〝者〟して仕舞う、不思議な力を感じる作品が沢山在りました。
坐禅は、自らを命の原点に戻すことです。原点ですから一切の無駄を省きます。残るのは、この体と息だけです。吸う息、吐く息に集中します。何者にも犯されない静けさと、そこを原点に全てが始まるエネルギーとがあります。ZEN AIRで来町されたおふたりが、おふたりながらに表現されたZENに感動致しました。

芸術と仏の世界が交わるところ

清涼山 天龍寺 住職　大路 博法 さま

来る者拒まず、坐禅をしたいという方を受け入れています。2023年９月末に中村さんからポートフォリオを見せていただき、制作への姿勢を伺ってその日から坐禅に参加いただきました。彼女は明るくて、積極的で決断力もあり魅力的な女性ですね。舞踊の心得があるからか坐禅の姿勢がよく、まっすぐ座っていらっしゃった。蔵の制作の手伝いに寺院総出で参りましたが思ったより力が必要な作業で、中村さんの秘めた体力に驚いたものです。
芸術という道をきわめようとしている人と仏の道をきわめようとしている人、どこか近しい共通点を感じました。言葉では説明できない、何か大きな世界を共有しているようです。今後この地に来て禅を学び制作活動をする方には、基本は坐禅だとお伝えしたい。道元禅師がおっしゃっている坐禅に取り組んでほしいです。

▲ 中村さんの作品コンセプトと模型をもとに制作手順を考え中です

◀ 天龍寺の皆さんが中村さんの流木の仕分けをお手伝いくださいました

この場所と建物を守りたい 芸術家が扉を開けてくれました

土肥家の蔵の提供者　土肥 誠一郎 さん

芸術家が見学に来て「蔵を貸してほしい」と言われた時は「えっ!?」と思いましたが、「展示によりこの古い建物と地域が知られるならありがたい」という想いから承諾しました。どんな要望でも「乗りかかった船だ、好きにしていい、何をしてもいい！」とゴーサインを出しました。制作期間中、私が気を付けたことは、あれこれ口出しせず手も出さずほうっておくこと。蔵を覗かないよう努めたんですよ（笑）。閉ざされた扉が開かれ、中村さんの作品を見た時は、美術館のような雰囲気になっていてうれしかったです。近所の人たちも喜んでくれて会期終了後も見学に来てくれています。過疎が進む地域で何かやりたい地元の人たちの、ぶくぶくした火山活動のような思いがひとつ弾けました。このぶくぶくが第二、第三と次々に弾けるとよいと思っています。

◀ 道順を示した看板作りを近所の方も一緒に手伝ってくれました

▲ 最初の見学時に建物の歴史を語る土肥さん

▲ ご近所のあいさつ回りのため雨上がりの田舎道を歩く

◀ 約3カ月の滞在中、料理をしたり一緒に出掛けたりしました

芸術家の想いや暮らしぶりから 改めて気づいた永平寺と自然のこと

レジデンス1提供　ゲストハウス駅前宿舎禪（ぜん）オーナー　酒井 和美 さん

大槻さんとの会話から、彼女が体力もあり自立した女性であることが分かったので、かえって邪魔にならないよう、気を使わせないよう接しました。登山をしたいという相談には明確な意図がありましたし、地元の歴史や禅の本をお渡しすると、それを咀嚼し作品に反映させていました。何気なく撮影しているわけではない、自然の中の人間とは何かを見出そうとする彼女の姿勢に私も学ばされました。永平寺町は都市部に比べて芸術作品や作家と触れることが少ない機会格差があります。今回町内の皆さんも喜んでいましたし、特に10代の子ども達には感性を育む貴重な体験になったと感じました。学校ワークショップはぜひ継続をお願いしたいです。

芸術家って自由で楽しそう 集中力がみなぎってました

レジデンス2提供　「禅の里」まちづくり協議会 会長/永平寺の館 雲粋（うんすい）店主　山口 権悟 さん

芸術家の滞在する家探しのご縁から、7月に私の元住居を貸すことになりました。永平寺ご本山のすぐそばの住居は、禅を身近に感じながら暮らした幼い頃の記憶のある場所です。芸術家が来ると聞いて「きっと気難しくて話しにくい人なんだろう」と勝手に想像していたら、その逆で（笑）。楽しく自由に生きている印象があり、ほっとしました。制作は進んでいるんだろうかと案じましたが、おふたりとも短期間で力を発揮する、集中力がすごかった！ 私の思いもつかない表現をしていて感心しました。協議会の人たちや永平寺門前地区の人たちも芸術家さんが訪ねるとうれしそうで、刺激があったようです。

▲ 中村さんに住居の説明をする山口さん

◀ 山口さんは普段、店で蕎麦料理を提供しています

▶ 完成した時も立ち会いました！

やってみたら楽しさしかない活動 アートと禅の両方を知るきっかけに

アートサポーター　齊藤 弘枝 さん

SNSで中村さんのアートサポーターの情報を知り応募しました。実は仕事を辞めた時期で私自身この先を悩んでいた頃だったのです。普段の生活で芸術家に出会うことはないし、「どうして芸術家に？」「どんな考えを持っているの？」を知りたくて一緒に活動できるなら何でもやろうという気持ちでした。約10日間、朝から晩まで中村さんにつきっきり（笑）。最初は天井の床を抜いたり、流木を選んで渡したり、最後はビス打ちを任せていただき楽しさしかなかったです。毎晩夫に報告すると「生き生きしているね」と応援してくれました。正直、禅のことは分からないままですが、作家と作品を通して私の知らない永平寺を知り、禅を知るための入り口に立てたような気がしています。

資　料

成果発表展 開催概要

会期
2023年12月7日(木)～12月17日(日)
大本山永平寺での展示
2023年12月11日(月)～12月17日(日)
※会期中無休

会場
◎第一会場
〈インフォメーションセンター／総合受付〉
旧永平寺保健センター(福井県吉田郡永平寺町東古市8-16-2)
月曜～金曜 12:00～16:30
土曜・日曜 10:00～16:30
(最終入場16:00)
駐車場：旧永平寺保健センターおよび永平寺口駅県営駐車場

◎第二会場
土肥家の蔵(福井県吉田郡永平寺町松岡湯谷8-29)
月曜～金曜 12:00～16:30
土曜・日曜 10:00～16:30
(最終入場16:00)
駐車場：土肥家近く、もしくは永平寺町松岡B&G海洋センター

◎第三会場
大本山永平寺 傘松閣〈さんしょうかく〉
(福井県吉田郡永平寺町志比5-15)
12月11日(月)～12月17日(日)
8:30～16:00
ただし、初日(11日)は9:30から、最終日(17日)は15:00まで。
観覧は無料ですが、大本山永平寺の拝観料(一般500円)が必要です。
※行持の都合により、時間が変わる場合があります。
駐車場：門前周辺の店舗およびコインパーキングをご利用ください。

観覧料〈現金のみ〉
旧永平寺保健センターおよび土肥家共通
※旧永平寺保健センターで受付
※1カ所のみでも同額
一般・大学生　500円
※高校生以下、70歳以上、障がい者手帳をお持ちの方とその介助者1名は無料
(受付で身分証明書をご提示ください)

大本山永平寺拝観料
大人　500円
小・中学生・障がい者手帳をご提示の方　200円
※未就学児は無料

関連イベント
◎ディレクター&参加アーティストトーク
12月10日(日)14:00 ～
ZEN AIRディレクター窪田研二と参加アーティスト2名によるトーク
旧永平寺保健センター
参加料　500円(鑑賞チケットをお持ちの方は無料)
事前申込不要

◎中村厚子による公開制作
会期中の土日(12月9日、12月10日、12月16日、12月17日)の午前中のみ
天龍寺(永平寺町松岡春日1-64)

◎中村さんと坐禅を組む&茶話会
12月15日(金)14:00 ～ 16:00
天龍寺(永平寺町松岡春日1-64)
参加費　1,000円〈要予約〉
定員　13名

クラウドファンディング 活動結果報告

寄付総額　1,265,000円
目標金額　1,000,000円
寄　付　者　67人
募集終了日　2023年10月31日

10月5日よりスタートしたクラウドファンディング(以下、クラファン)は、26日目に目標金額である100万円を達成しました。開催に向けて補助金を頂くことができたものの、アーティストを受け入れるための家屋の修繕など、複数項目で補助の対象外となってしまうため、クラファンで資金を募りました。成立しなければ企画そのものを見直さなくてはならず、実行委員会スタッフは大きな不安を抱えていました。が、不安を吹き飛ばすかのように全国より多くの寄付を頂くことができましたこと、心よりお礼申し上げます。

返礼品　**お礼のメール、ZEN AIR特製グッズ、成果発表会への優待チケット、活動報告書、アーティストとの交流会への優待チケット**

メディア掲載

◎アーティスト招聘後および成果発表展

テレビ
2023年10月15日～30日　永平寺町行政チャンネル　「永平寺中学校 芸術家と意見交換」
2023年11月26日　FBC　福井県広報番組「朝だよ！ハピネスふくい」『文化芸術で人と地域が輝く』
2023年12月 6 日　FBC　「おじゃまっテレ　ワイド&ニュース」
2023年12月12日　NHK福井　「ニュースザウルスふくい」『滞在した2人の芸術家が表現したもの』
2023年12月15日～31日　永平寺町行政チャンネル「ZEN AIR 成果発表展」

新聞
2023年10月25日　福井新聞　禅の魅力、芸術で発信
2023年12月14日　福井新聞　禅文化に触れ創作130点
2023年12月15日　福井新聞　ピックアップ
2023年12月16日　福井新聞　越山若水
2024年 1 月24日　日刊県民福井　県内に芸術家拠点 根付け

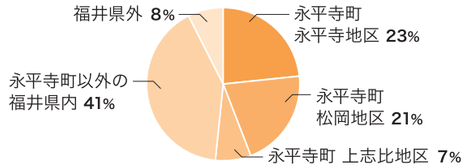
ネットメディア
2023年10月 6 日　福井新聞ONLINE　福井県永平寺町にアーティストが滞在し禅文化を発信 クラウドファンディング開始
2023年12月 7 日　福井経済新聞　福井・永平寺町での実施制作の芸術展 芸術家2人、「禅の里」テーマに展開
2023年12月　福井の旬を一瞬でお届け「日々 URALA(ウララ)」
2023年12月　ふくいの旬な街ネタ&おでかけ情報ポータル「ふ～ぽ」

2023年11月号～ 1 月号　広報永平寺

来場者アンケート結果

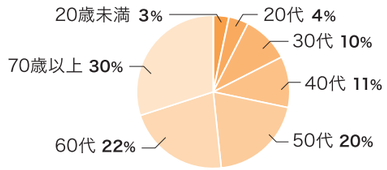
回答数 120

❶あなたのお住まいについて

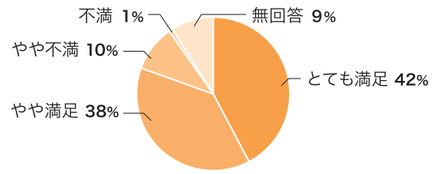


永平寺町以外の福井県内	あわら市、越前市、大野市、勝山市、鯖江市、坂井市、南越前町、若狭町
福井県外	青森県、神奈川県、石川県、大阪府

❷あなたの年齢について



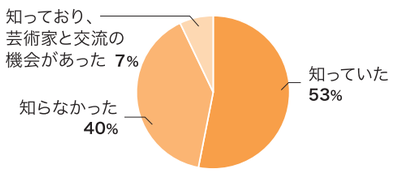
❸展覧会の全体的な満足度はいかがでしたか？



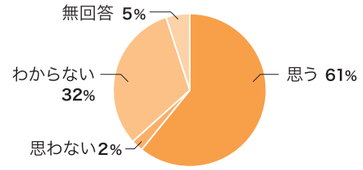
■とても満足・やや満足
- 永平寺町のよさがよく分かった。
- 想像していた以上に深い内容で、今回作家さんの解説があってとても理解できた。
- 普段なにげなく見ている風景など見方、捉え方で随分かわるもの。
- ものの見方を気づかされた。
- あまりこのような展覧会に触れる機会がないため貴重だった。
- 身近にある景色の写真、感性にもとづいた作品、心を豊かにしてくれる何かを感じた。

■不満・やや不満
- 作品を展示する会場(旧保健センター)としてふさわしくないように感じた。
- 作品の理解の手がかりになる解説(キャプション)が少なかった。
- ZEN AIRのネット情報を見て期待が膨らみすぎていた。
- 大槻さんのおそらくメインになる作品が傘松閣に移っていたから見れなかった。
- 作品の理解が難しい。
- 会場が人気の少ないところのため、多くの方がいらっしゃる場所にはなりにくい。
- 質問に対応できる人や機会がもっと欲しい。

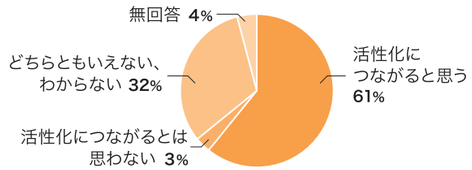
❹9月～12月にかけて、永平寺町に芸術家が滞在していたことをご存知でしたか？



❺近所に芸術家の創作活動場所があったら、交流をはかりたいと思いますか？

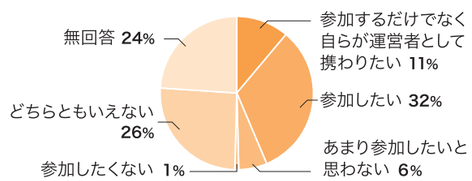


❻地域に芸術家の創作活動の場があると、地域の活性化につながると思いますか？

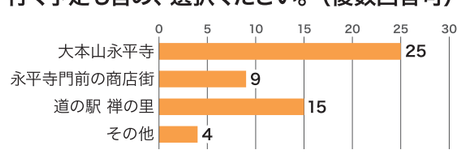


「活性化につながると思う」と答えた方にお聞きします。具体的にどのように活性化すると思いますか？(抜粋)
- 大人の普段使わない五感を刺激する貴重な場になると思う。
- 子供達の創造性を育む場にもなると思う。
- 今回のような展示等を通して地元の姿を見直す機会になるのではないかと思う
- 人のつながり、ボランティアが始まる。
- 地域の隠れた良さを外部の人の視点で認識することいつか誇りになっていくと思う。
- 永平寺を観光+芸術鑑賞という観点で永平寺の観光客がより増えると思う。
- 芸術に興味を持つ人が増え、他の市町や県外方の訪問者も来るきっかけになると思う。
- 永平寺に根付く禅文化の魅力発信になる。
- 地域住民との交流からいろいろアイデアが生まれそう。
- アート好きが集まってにぎわうと思う。

❼芸術(アート)を活用したまちづくり、地域づくりに積極的に参加したいですか？



❽今回の成果発表展にあわせて、永平寺町内で他の観光地等には行かれましたか。行く予定も含め、選択ください。(複数回答可)



Reflections on "ZEN AIR -Artist In Residence EIHEIJI" in 2023

In 2023, the Fukui Arts Center and Residence Project Executive Committee launched an artist-in-residence program entitled "ZEN AIR -Artist In Residence EIHEIJI" in Eiheiji Town, Fukui Prefecture, a Zen village that is home to Eiheiji Temple, the head temple of the Soto Zen sect of Buddhism. The program offers artists and others the opportunity to stay in Eiheiji-Town for three months to experience Zen culture, conduct research on Zen and the region, and engage in production and research while interacting with local residents.
In FY2023, 67 applications were received from Japan and abroad. Two artists were selected from among them: Yuiga Otsuki, who works mainly with photography, and Atsuko Nakamura, who creates sculptures and installations using natural materials and other resources, and expresses herself through Butoh dance.

The two artists stayed in Eiheiji Town from September to December.
Ms. Otsuki researched and photographed places closely related to Zen, mainly in the area of Eiheiji Temple and Eiheiji Town. She also went to Eiheiji Temple once or twice a week to create embroidered works based on patterns and shapes she found in the temple. Meanwhile, every day Ms. Nakamura went to Tenryuji Temple, the Soto Zen sect of Buddhism temple in Eiheiji Town, to practice zazen, and she participated in an all-day zazen meditation. She created drawings and driftwood pieces using the inspiration she gained there. She created improvised three-dimensional works using natural objects she collected while walking around Eiheiji Temple.
They also climbed Mount Daibutsuji, a mountain closely associated with Zen master Dogen, and visited a local junior high school to participate in a class. Ms. Nakamura also conducted a butoh workshop for junior high school students. For these students, meeting people working as professional artists is also a valuable experience. They realized that their ordinary daily life has a valuable charm to it.

From December 7 to 17, exhibits featuring their works were held at three locations in Eiheiji Town. The main venue was the former Eiheiji Health Center. The Echizen Railway runs next to the building, making it a very good location. There, we showcased Nakamura's drawings and small works, and Otsuki's photographs and embroidery. During the artist talk, we expanded the conversation with the director, Kenji Kubota, about what the two were thinking while creating their works. The second venue was the Dohi family warehouse, where Nakamura's driftwood work was exhibited. The third venue was at Eiheiji Temple, the head temple of the Soto Zen sect of Buddhism, in the Sanshokaku Painted Ceiling Room. Otsuki's works taken at Eiheiji Temple and other places related to Zen master Dogen were exhibited here.

On February 17, 2024, an "After Talk" was held in hybrid format to reflect on the activities and think about the future. It was a meaningful time for collaborators to share their concerns with each other. We feel that ZEN AIR was a great achievement in that it allowed us to take a fresh look specifically at "Zen" and everyday life, which had been taken for as an important “attraction” by the people residents of Eiheiji Town.

Many volunteers helped to set up the base of operations and provide support for the production. We were also able to interact with local residents who had not been involved in art before. In the next fiscal year, we would like to increase volunteer activities. We think it would be a good idea to hold a zazen meeting together.

It will take several years for Eiheiji to be recognized as a "town of Zen and art" by many people. Therefore, it is important to sustain the program for many years. We have received many "connections" during this year's activities. We would like to continue to enjoy our activities and, talk and, listen, to each other as we deepen, and expand "ZEN AIR" as a place to connect with you all.

2023年度ZEN AIRを終えて

「このまえ」と「これから」のご縁をつないで育てる

「アーティストにとって禅の魅力は計り知れない、永平寺町でその力を生かそう」という声から立ち上げたのが、アーティスト・イン・レジデンスプログラム「ZEN AIR」である。ただ正直、疑心暗鬼だった。本当に応募があるのだろうか。町民の多くはそれほど「禅」を意識して過ごしているわけではない。実際アーティストが永平寺町を訪れたとき、その現実にがっかりするのではないか。不安ばかりが募った。

それは杞憂だった。67組もの応募がありアーティストの「禅」への関心の高さは、私の予想をはるかに超えていた。大槻さんが役僧さまや雲水さんに手を合わせてにこやかにご挨拶する姿、中村さんが日々の坐禅で感じたことをご住職や地域の方に生き生きと語る姿を見て、それまでのもやもやは晴れた。アーティストの視点で「禅の魅力」「永平寺町の魅力」が引き出されていく様を目の当たりにして、嬉しくてたまらなかった。

大槻さんと中村さんが永平寺や天龍寺の皆様と過ごす様子から、私がいだいていた「禅」=「修行」「厳格」というイメージも、もっとやわらかく、人間味のあるものへと変化していった。永平寺や天龍寺でお聞きするお話は、意外にも生活につながっていて、その時々の自分のどこかに引っかかり、すとんと心に落ちた。「禅」が少し近づいてきた瞬間だった。

さらに言えばアフタートークに参加して、力を貸してくださった方の思いに触れ、より見えてきたものがある。ひとつは滞在拠点や展示会場を提供してくれた地域の方の「寄り添う心」。アーティストの邪魔にならないよう程よい距離感を意識していたとお聞きし、家族のような温かさを感じた。きっとドタバタしていた私にも同じように寄り添ってくださっていたのだと気づき、改めて感謝の気持ちでいっぱいになった。

もうひとつはボランティアの方からの「余白のある活動」という言葉。参加者が自ら何をしたらよいか考える「余白」のある活動がよかったというのだ。事務局としてはもっと細かく気を回すべきだったと反省していたが、それを「余白」と表されたことは、今後の活動を考える上での大事な視点となった。

そして鑑賞者の方からいただいた「もっと町外・県外に開かれたイベントになったら」という課題。「開く」ことは、これからを「拓く」ことにもなるはずだ。そのための仕掛けを考えていかなければと感じた。

改めて、「ZEN AIR」がどれだけたくさんの方の思いに支えられていたかを今ひしひしと感じている。「禅」と「アート」がつないだコミュニティは、まだつながり始めたばかりだ。「ZEN AIR」がどんな地域の魅力を引き出し、どんな出会いを生み、どんなコミュニティを拓いていくのか。「このまえ」のご縁をもとに「これから」のご縁とつないで、この「ZEN AIR」を大切に育てていきたい。

ふくいArts Center and Residenceプロジェクト実行委員会 事務局
後藤 亜好

After Report

2024年2月にZEN AIR 2023 アフタートークを開催。「このまえのこと&これからのこと」というサブテーマで、本年度の活動にいろいろな形で関わっていただいた皆さまをオンラインで結び、お話を聞きました。ZEN AIRがきっかけで新たな動きに繋がっていることも分かり、次へのステージが見えたトークでした。

2024年2月17日(土)16:00～18:30　3会場&オンライン　約50名参加

2023年度「ZEN AIR -Artist In Residence EIHEIJI」

プログラム監修　ZEN AIRディレクター　窪田 研二
主催　ふくいArts Center and Residenceプロジェクト実行委員会
（構成団体）
福井商工会議所、永平寺町商工会、(一社)永平寺町観光物産協会、(公社)福井県観光連盟、
(株)ミツヤ、(株)クラフトパートナーズ、永平寺町、福井県

本事業は、以下の助成をうけて実施しています
令和5年度　文化庁 文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業
令和5年度　福井県 アートプロジェクト支援事業
令和5年度　永平寺町 アーティスト滞在型活動支援事業
令和5年度　公益財団法人げんでんふれあい福井財団 助成事業

文化庁

Special Thanks　クラウドファンディングにご支援くださった皆さま
滞在拠点・展示会場整備、中村厚子制作サポートにボランティアとしてご参加くださった皆さま
永平寺町の皆さま

お問い合わせ
ふくいArts Center and Residenceプロジェクト実行委員会
事　務　局：福井県交流文化部文化・スポーツ局文化課
〒910-8580 福井県福井市大手3丁目17-1　5階
TEL:0776-20-0582　FAX:0776-20-0661
E-mail:info@zen-air.org
特設サイト：https://zen-air.org/

SNS　Instagram　@zenaireiheiji
Facebook　https://www.facebook.com/zenaireiheiji

2023年度「ZEN AIR -Artist In Residence EIHEIJI」活動記録集

2024年2月発刊
編集／後藤亜好　齊藤理子　　デザイン／齊藤弘枝　亀田幸恵　　写真／砂田竜吾

ふくいArts Center and Residenceプロジェクト実行委員会

公式HP

Instagram

Facebook

ZEN AIR
Artist In Residence EIHEIJI